

広報 しばた

2016. **1**
since 1961 No.651



さらなる成長を願って

「よいしょー、よいしょ！」のかけ声に合わせて、餅をつく子どもたち。家庭での愛情と地域での体験が子どもたちを大きく育みます。

【12月16日(水)西船迫保育所餅つき会】

新年あけまして
おめでとうございます



2016年
新年のごあいさつ

柴田町長 滝口 茂

昨年は、外国からわが国を守るための安全保障関連法案について大きな論争となりました。しかし、日頃町民の暮らしぶりや地域の動きを見てみると、守るべき日本の国そのものが足元から崩れかかっているように思えてなりません。

その原因となっているのが、人口減少による地域の衰退であり、人と人との絆の希薄化による地域コミュニティの崩壊です。

そうした中、国は豊かで活力のある日本を取り戻すために、新たな三本の矢を掲げました。一つは、強い経済を目標し、GDP（国内総生産）600兆円の目標を設定しました。二つに、子育て支援を充実させ、2025年をめどに希望出生率※1・8とすることを目標としました。三つに、社会保障分野においては、介護離職ゼロを目指すとしています。



多くの方がしばた千桜橋からの眺めを堪能しました



悠久の歴史を刻む白石川と四保山（船岡城址公園）



人口減少問題については、幸いにも柴田町は、日本創成会議が予測した「消滅可能性都市」には該当していませんでした。しかし、このまま何も手を打たなければ、人口減少に拍車がかからないとも限りませんので、その的確な対応が求められるところです。

フットパスによる 元気なまちづくり

今年、第5次柴田町総合計画後期基本計画の2年目となります。また、昨年10月に策定した「柴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」―フットパスによる元気なまちづくり―が実質スタートします。その具体的な戦略の柱は、次のとおりです。

- 1 雇用創造プロジェクト
- 2 交流・移住推進プロジェクト
- 3 子育て世代応援プロジェクト
- 4 暮らしを支える基盤づくりプロジェクト

この4本の矢で、柴田町をワンランク上の自治体に成長・発展させてまいります。

フットパスによる元気なまちづくりとは、地域がこれまでで育んできた歴史や文化、自然を一つの道でつなぎ、地域の人との交流を通じて、柴田町の素晴らしさを知ってもらおうという「まちづくり戦略」です。歩く人にとって楽しいと思えるようなフットパスコースを地域住民の力を結集し、数多く整備することで、地域に内発力を付け、ひいては新たな仕事おこしや地域おこしにつなげたいと考えています。

1 雇用創造プロジェクト

企業誘致や小規模事業者の経営改善、異業種事業者間の連携に積極的に取り組むとともに、地域資源を有効活用し、生産・加工、そして、流通・販売までを見据えた6次産業化の推進に努め、新たな特産品の開発やグルメの掘りおこしを目指します。

特に、農産物直売所の地域情報マップの作成や伝統的な食文化などの情報発信、ふるさと納税を活用した花木や農産加工品の販路拡大を通じて、小さな仕事おこしに地域ぐるみで取り組み、働く場の創出に努めてまいります。

2 交流・移住推進プロジェクト

しばた千桜橋や里山ガーデンハウスの完成で、お花

見の名所としての魅力が高まりました。さらに、国を挙げてのインバウンド^{※2}への取り組みが功を奏し、

昨年の桜まつりには、柴田町始まって以来の多くの外国人が来訪するまでになりました。今年度は、さらに白石川親水公園や桜の小径^{こみち}の整備、歴史的な観光資源の再整備を進めるとともに、多くの外国人観光客を呼び込むために、「花のまち柴田」インバウンド推進事業を積極的に推進してまいります。

また、移住・定住関連の情報提供や支援を一元化した全国移住ナビを活用して、移住希望者に対し、仕事、空き家、イベントなどの情報発信にも努めてまいります。

※1…希望出生率…国民の希望が叶った場合の出生率

※2…インバウンド…訪日外国人旅行者



第1回フットパスフォーラムで秋の白石川堤を歩く参加者



観光バスで多くの外国人が来訪した昨年の桜まつり



3 子育て世代応援プロジェクト

子どもの減少や多様化する保育ニーズへの対応、さらに、いじめや子どもの貧困への対応が求められています。若い世代が安心して子どもを産み育てられるよう、保健、福祉、教育などの関係機関が連携し、妊娠から出産、保育、教育まで切れ目のない子育て・子育てのための支援体制を整備してまいります。

また、子どもたちが自然体験を通じて、心身ともにたくましく成長できるように、自然豊かな太陽の村に冒険遊び場などを整備するほか、仙台大学の専門的知識や人材を活用し、子どもたちをトップアスリートに育てるための体制づくりに努めます。

学校施設の整備では、船迫小学校プールを完成させ、さらに船岡小学校の大規模

改修、船迫中学校や東船岡小学校のトイレの洋式化に着手します。

4 暮らしを支える基盤づくりプロジェクト

高齢者などが、住み慣れた地域で安心して生活ができるようにするために、医療・介護予防・住まいなどの生活支援を包括的に確保する「地域包括ケアシステム」の構築を図ります。また、地域における自主防災組織の活動やボランティア活動を支援し、安心して安全に暮らせる基盤づくりに努めます。

さらに、町民が生きがいを持つて生涯現役を続けられるよう、郷土学習活動や自然観察活動、フットパス活動を支援するとともに、自ら企画し自主的な活動ができる場や拠点づくりに努め、元氣な町民による活動人口を増やしてまいります。



工事が進む船迫小学校プール



子育て支援の拠点となっている船迫こどもセンター

都市の基盤整備

都市の基盤の整備につきましては、三つの重点項目について全力を挙げてまいります。

1 公共施設等総合管理計画の策定

人口が減る時代における公共施設の整備や管理のあり方について、平成28年度に指針を示してまいります。新しい施設の建設抑制、同じような機能を持つ施設の統廃合、公共施設の延命化対策や管理のあり方について検討してまいります。この計画を策定するにあたっては、総合体育館や図書館など大規模な公共施設の建設計画との兼ね合いもありますので、多くの町民の皆さんの意見に耳を傾けながら慎重に進めてまいります。

2 局地的な冠水対策

昨年9月10日の関東・東北豪雨は、柴田町にも大きな被害をもたらしました。これまでも、町内各地における局地的な冠水対策については、全力で取り組んできましたが、最近の雨の降り方は異常で、これまでの想定を超えるものとなっております。

河川や水路の抜本的な改修には相当な費用と時間を要することから、今年は今局冠水対策マニュアルを作成し、常設ポンプの新設・増設や早めの移動式ポンプの設置など、ハード・ソフトの両面から緊急対策に係る方針をまとめ、冠水などの水害に備えてまいります。



3 総合体育館の建設

総合体育館の規模については、A案（総事業費約50億円）、B案（同約40億円）、C案（同約30億円）の3案を作成し、住民懇談会や体育関係者の間で意見交換を行ったところです。「どうせ作るなら、中途半端でないものを」「子どもや孫に過度の借金を残さない規模のもの」とそれぞれ異なった意見が出されました。今後、こうした相反する意見を集約しながら、3月末までに柴田町の身の丈に合った体育館の規模を決定したいと考えています。

新年度の予算では、建設予定地のボーリング調査などの基礎調査を実施してまいります。その後に、より豊かな町民のスポーツライフの充実と新たなにぎわいを創出する施設として、また、防災拠点施設となるよう、基本設計に着手してま



総合体育館建設予定地



体育関係者との意見交換会
まいります。

町制施行60周年記念

平成28年度は、柴田町が誕生して60周年になります。50周年の節目の年には、財政危機が差し迫り、お祝いをすることができませんでした。しかし、今回は、記念事業として、四季の彩りをテーマに、美しい柴田町の景観を映像化したプロモーションビデオを作成するとともに、次の世代に引き継ぐべき「しばた100選」を3月には町民の皆様にお披露目したいと考えております。

また、4月には町制施行60周年記念事業として、念願だった全国さくらサミットを開催し、先人たちや町民の桜に寄せる想いを国内外に、そして、千年先まで伝えていきたいと考えております。桜を起点にした観光まちづくりは着実に進展し、今や白石川堤一目千本

桜や船岡城址公園の桜、そして、それを結ぶ「しばた千桜橋」は外国人の心までもしっかりと捉え、知名度が上がってききました。今後さらに、集客力を高め、街中ににぎわいをつくり出していくためには、新たな町の魅力や活力を生み出そうとする町民の皆様の熱意と行動力が必要となります。

今年「申」年。干支である「申」は「伸ばす」という意味もあり、新たな未来に向かう柴田町の船出にはふさわしい年と言えます。町民の皆様には今後とも町の発展に力添えを賜りますとともに、この一年が輝かしい年でありますようご祈念申し上げます、新年のあいさついたします。



人出が2倍となった「光り輝け！しばたのイルミネーション」



年々盛大になる曼珠沙華まつり

人の皆さんの新年の抱負～



船迫中学校3年生

さわだ りこ
澤田 莉子さん
(北船岡地区・15歳)

昨年は、文武両道で頑張ってきました。3年間続けてきたソフトボールも最後の大会を準優勝で終えることができ、悔いのない中学校生活となりました。また、合唱コンクールでは、クラス全員が団結し、最優秀賞を獲得したことが思い出に残りました。

今年は高校受験も控えています。残り3ヶ月、勉強だけでなく、友人との絆を大切にしていきたいです。



昨年の出来事で印象に残っているのは、9月の豪雨です。自宅は被害を受けませんでしたが、水田が浸水したり、水稲が倒れたりしました。昨年は、収穫量が一昨年よりも10%落ち、品質も落ちてしまいました。今年は、昨年のような水害などに遭わず天候に恵まれ、農作物が豊作となってほしいです。そして、収穫期には仲間と一緒に喜びたいです。

今年も家族4人が健康で一年間過ごしたいです。

農業

あおやぎ ひでお
青柳 秀夫さん
(葉坂地区・88歳)



有限会社高美住設

さとう やすこ
佐藤 八寿子さん
(船岡地区・59歳)

昨年は、病気にもならず仕事も順調で、つつがなく過ごせた一年となりました。

今年も、健康でいることが大きな目標です。仕事の面では昨年以上に自分が満足できる仕事をして、誇りを持てるようにしたいです。また、プライベートも含めてわくわくするような年にしたいです。



毎週木曜日、槻木生涯学習センターで、耳の不自由な方との交流を図っています。

昨年は、手話サークルや地域のボランティアに参加しました。大きな病気にならず過ごすことができ、自分の好きなことをした一年でした。

今年も、手話の技術を磨いて、さらに上手になれるようになりたいです。

柴田町手話サークル

おおた ちかこ
太田 千賀子さん
(槻木地区・66歳)



柴田町テニス協会会員

なかむら かずひろ
中村 一広さん
(西船迫地区・35歳)

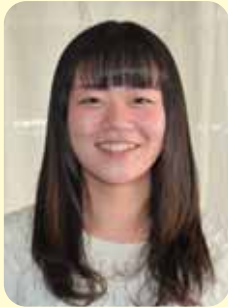
昨年は、大きなけがもせず、テニスを楽しむことができました。会員の中には、自分の

親と同世代の方もいます。私もその方たちの年代まで、テニスを楽しみ続けることが目標です。

今年も、試合に出場したいと考えています。そのために、体力アップと正確なショットを打てる技術の向上を目指したいです。



新年を迎えて ~10



柴田町JL(ジュニアリーダー)
☆OB・OG会

たやま ありさ
田山 愛里沙さん
(下名生地区・20歳)

高校卒業後、柴田町JL☆OB・OG会に加入し、ジュニアリーダーとして活動する子どもたちのサポートをしています。私自身もジュニアリーダーの経験があるので、楽しさやつらさも理解しています。後輩たちにも、多くのことを学んでほしいです。

これまでの活動で多くの方と接してきました。さらに人生を豊かにするために、人と人とのつながりを強めていきたいです。

しばたETフェザンツで子どもたちに野球の指導をしています。子どもたちは、練習を通して技術面だけでなく精神面でも成長していることを日々感じています。コーチをしていると子ども目線でグラウンドに立てるので、子どもたちと様々な感情を共有できることが嬉しいです。



今年も子どもたちが、一段と成長できるようにサポートをしていきたいです。

しばたETフェザンツ・
コーチ

ひらま りょう
平間 亮さん
(西船迫地区・36歳)



船岡小学校6年生

やしま たかと
八島 崇人さん
(船岡地区・12歳)

ごみの収集・運搬などの事業を行っています。昨年は、将来に向けて会社の事業拡大のために行動したことが多かったです。また、一步一步新しい仕事にも挑戦しています。

今年も、昨年以上に知識を吸収して仕事に生かし、充実した年になるように頑張りたいです。



あおば衛生社 代表

たかはし ひろゆき
高橋 広幸さん
(西住地区・41歳)

柴田町船岡保育所

こだま ますみ
児玉 真澄さん
(船岡地区・27歳)

船岡保育所で4、5歳児クラスの担任をしています。昨年は西船迫保育所から船岡保育所に異動し、覚えることが多く戸惑うこともありましたが、保育士としての自分を見つめ直すことができ、とても充実した年となりました。

今年も、プライベートも充実させ、子どもたちと一緒に笑顔でいられるような年にしたいです。



地方創生

「フットパスによる元気なまちづくり」

柴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略

※フットパス：ありのままの風景を楽しみながら「歩くこと (Foot)」ができる「^{こみち}小径 (Path)」のこと

地方創生とは、「東京一極集中を改善し、地方での産業の競争力を高め、若い世代を中心に地方の人が地元で働き、豊かに暮らせるようにしよう。そして、人口減少対策につなげ、地方から日本を元気にしよう」と、それぞれの自治体が、地域の個性を生かし自分たちで何ができるのかを考えながら、独自の戦略を立て、それに対して国が支援をしてくれるというものです。

一昨年5月、日本創成会議・人口減少問題検討分科会は、日本の人口減少は「待ったなし」の状態にあり、将来の問題ではなく今の問題として、将来消滅する可能性がある自治体は896に上ると試算をまとめ発表しました。

日本創成会議の推計における柴田町の若年女性（20歳～39歳）の減少率は45・1%で、50%を超えず消滅可能性都市には入らなかったものの、非常に高い減少率となっています。

国は人口急減社会への警鐘と危機感を持ち、一昨年の9月に「まち・ひと・しごと創生本部」を設置しました。同年12月に国は総合戦略を策定し、全国の自治体に示しました。これを受けて、柴田町も「柴田町まち・ひと・しごと創生推進本部」を昨年1月に立ち上げ、人口の現状と将来の姿を示す「柴田町人口ビジョン」と今後5年間の具体的な目標や施策をまとめた「柴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」）を同年10月に策定しました。



柴田町人口ビジョン

人口の現状や推計を分析することで、町の人口動向の特性と課題を把握し、目標とすべき将来の方向性と人口の将来展望を示すものです。

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計を基に、出生率や生存率の上昇と社会移動の減少への取り組みを推進することによる効果を見込み、独自に推計したものです。

2060年の町の人口は、社人研の推計に準拠した場合、2万4875人まで減少すると見込まれます。しかし、現在の地域コミュニティ活動が今後とも継続できるようにするため、5200人程度の人口減少を抑制した3万人と推計し、下記のとおり目標人口を定めました。

この目標を達成するためには、「出生数の向上」と「人口流出の抑制とU・Jターンの促進」、「地域課題の解決と本町の特徴を生かした地域活性化」の3つの取り組みを積極的に展開することが大切です。



出生数の向上

平成20年から平成24年の合計特殊出生率※1・35を2030年には1・8程度、2040年には国が定めた水準の2・07まで上昇させることを目標とします。

※1…合計特殊出生率…1人の女性が生涯に産む子どもの平均数

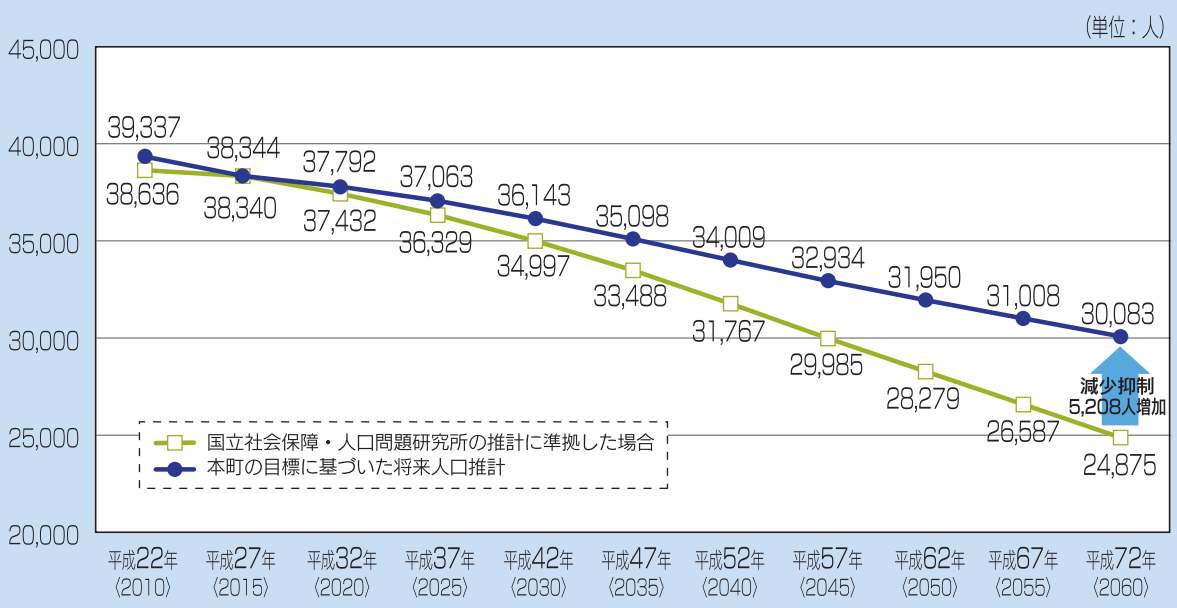
人口流出の抑制とU・Jターンの促進

高校や大学を卒業後、地元で「働きたい」という希望を実現するための条件整備や、進学・就職のために一度転出した若い世代が「地元に戻る」環境の整備を促進することを目標とします。

地域課題の解決と町の特徴を生かした地域活性化

地域課題を解決していくために、町内会やまちづくり団体などが行政と協働で取り組みます。そして、地域資源の活用や美しい景観に磨きをかけて、国内外から人呼び込む観光のまちづくりを目標とします。

将来人口の目標値 平成52年(2040年) 人口 34,000人
平成72年(2060年) 人口 30,000人



まち・ひと・しごと創生総合戦略

柴田町の人口ビジョンに掲げられた目標を達成するためには、合計特殊出生率の向上、転出の抑制と転入者の増加、そして、人口規模の安定と人口構造を確保する必要があると考えています。

これらの目標を達成するために、総合戦略では、国と宮城県の取り組みとの整合性を図り、4つの戦略と基本目標を定めました。施策ごとに数値目標を設定し、毎年度、事業成果の検証と見直しを行いながら進めていく5年間の計画です。

総合戦略の4つの基本目標とその目標を実現するための施策は次のとおりです。

戦略 1

雇用創造プロジェクト

基本目標：小さな仕事おこしを通して働く場を創出する

数値目標（平成31年度）

- ①従業員数：現状維持（平成24年度12,865人） ②誘致企業数：53企業（平成25年度51企業）
③起業支援数（年間）：12件（平成25年度8件）

具体的な施策

■ 花のまち柴田のブランド化と特産品づくり（6次化の取組）

- 柴田の6次化支援強化事業（先行型） ● 花き振興事業 ● 遊休農地再生事業 ● ICT※2を活用した販路拡大事業 ● 特産品やお土産開発支援事業

■ 地域ぐるみでのスモールビジネスの開発

- 地産地消コーディネーター派遣事業（地産地消仕事人制度活用） ● 地産地消推進支援事業とマップの作成 ● 新たな農産直売所の開設

■ 若者及び女性の雇用機会の拡大

- 商工会との連携による創業支援に向けたネットワークの構築 ● 商工会との連携による新規ビジネスの育成・支援事業 ● 若者等職場定着支援事業（先行型） ● 新規就農者・農業後継者の育成事業 ● 地域おこし協力隊事業 ● スモールビジネス・ソーシャルビジネス育成事業 ● みやぎ若者就職支援センターとの連携事業

■ 地場産業の育成

- 企業誘致活動の推進 ● 企業立地促進条例の各種優遇措置による企業立地の促進 ● 異業種ビジネスチャンス支援事業（先行型） ● 町内企業へのインターンシップ支援 ● 集落営農水田担い手対策事業 ● ほ場整備事業

戦略 2

交流・移住推進プロジェクト

基本目標：花のまち柴田への新たな交流・移住の流れをつくる

数値目標（平成31年度）

- ①観光客入込数：438,000人（平成25年度398,265人） ②転出超過数：25人（平成25年度末49人）

具体的な施策

■ 移住・定住活動の推進

- 空き家等実態調査事業 ● 全国移住ナビ活用による情報発信事業 ● 移住者セミナー事業

■ 魅力ある観光地づくりへの取組

- 花回廊の整備による回遊性の向上事業 ● 白石川一目千本桜の景観向上及び船岡城址公園歴史文化資源の活用事業 ● 地域資源を活用した観光振興事業（先行型） ● 広域観光ルートの開発 ● 体験型観光の推進 ● 「花のまち柴田」インバウンド推進事業（上乘せ）

■ 広報及びプロモーション活動の推進

- ホームページの充実や外国人向け観光案内板の設置 ● プロモーションビデオの制作と活用 ● タウンセールス及び観光プロモーション活動の推進 ● コミュニティFM局の開設 ● SNS※3研修の開催

戦略 3

子育て世代応援プロジェクト

基本目標：若い世代が希望をもって働き、子育てができる社会をつくる

数値目標（平成31年度）

- ①保育所等利用待機児童数：0人（平成26年度24人）
- ②ファミリー・サポート・センター利用者：421人（平成26年度371人）
- ③合計特殊出生率：1.4（平成20年度～平成24年度1.35）

具体的な施策

■ 子育て環境の整備と支援

- 母子保健事業 ●こども医療費助成事業 ●家庭的保育事業 ●ファミリー・サポート・センター事業
- 児童館整備事業 ●児童クラブ等の民間委託 ●空き店舗を活用した福祉施設整備事業（先行型） ●女性の再就職支援事業 ●婚活支援事業

■ 健康づくりとスポーツの振興

- 健康づくりポイント事業の拡充 ●保健事業の充実 ●公共施設の禁煙化 ●生涯学習の充実 ●総合体育館設計及び建設
- 生涯スポーツの振興 ●総合型地域スポーツクラブ支援事業

■ 教育環境の充実

- 安全で快適な教育環境の整備・促進 ●学校に対する支援体制の充実 ●トップアスリート育成事業（上乘せ）



戦略 4

暮らしを支える基盤づくりプロジェクト

基本目標：住民活動や地域間連携で安心して暮らせる地域をつくる

数値目標（平成31年度）

- ①フットパスイベント参加者数（年間）：500人
- ②小さな拠点の形成数：1カ所

具体的な施策

■ フットパスによるまち歩きの推進

- フットパスコースの整備と情報発信（先行型） ●フットパス団体の組織構築事業 ●フットパスイベント開催（体験・交流・ガイド育成） ●オープンガーデン事業 ●里山ハイキングコース整備事業

■ 仙台大学との連携強化

- 各種連携事業の推進 ●インターンシップ活動支援

■ 多様な地域間連携の推進

- 小さな拠点整備事業（先行→上乘せ）
- 地域づくり交付金の充実 ●デマンド交通運行の拡充

■ 高齢者の活躍の場づくり

- シルバー人材センター就労支援
- 協働教育推進事業
- 介護予防・日常生活支援総合事業



※2：ICT（Information and Communication Technology）…情報通信技術を表すITに、コミュニケーションの概念を加えた言葉

※3：SNS（Social Networking Service）…インターネット上の交流を通して社会的ネットワーク（ソーシャル・ネットワーク）を構築するサービスのこと

「町の夜空に
冬の大輪」



点灯式では、館山中腹から花火が打ち上げられました。

船岡



船岡城址公園

光り輝け！
しばたのイルミネーション2015



船岡駅

しばたの冬を彩る
イルミネーション

メタセコイアの奇跡！ 光り輝け槻木駅2015



槻木駅西口

槻木



奥州柴田一番太鼓



よさこい

富沢



富沢集会所

上川名



上川名貝塚・
火の見櫓(やぐら)



まちかど NEWS



雨乞の生柚子を買い求める来場者



盛況だった柚子の種とばし大会

雨乞の柚子をPR「しばた柚子フェア」

11月21日(土)、柴田町太陽の村で「第4回しばた柚子フェア」が開かれ、1,400人が来場しました。「雨乞の柚子」を使った料理の試食や柚子の種飛ばし大会などを通して、柚子の魅力を知ってもらうことを目的に開催されています。

仙台市から訪れていた小松孝敬さん、優華さんは、「初めて来ましたが、雨乞の柚子の香りはとても良かったです。来年も来たいです」と話されました。

町内小学生の作品が最優秀賞 「ごみダイエット・絵画、標語コンクール」

仙南地域広域行政事務組合がごみの減量を目的に開催したコンクールで、遠藤楓佳さん(槻木小学校6年生・標語)と佐藤瑠南さん(東船岡小学校6年生・絵画)が最優秀賞を受賞しました。12月7日(月)、役場で滝口町長が二人に賞状を伝達しました。

二人は、「自分たちの作品を見て、きれいな町になると良い」と希望を話してくれました。作品はポスターになり、仙南地域で1年間掲示されます。



写真左から最優秀賞の遠藤さんと佐藤さん

広 告

広 告

「いこいの日」で元気に 第27行政区



仙台大学による健康体操も行われました。

11月17日(火)、第27区集会所(海老穴・小成田地区)で「いこいの日」が開催されました。地区住民が自家製こんにゃくやもち米など、区内で採れた農作物ではっと汁やおこわを作り、参加者みんなで食べました。参加した平間信さんは体を動かしながら、「いこいの日のおかげでも元気。ありがとう」と話してくれました。いこいの日は、高齢者が元気で暮らすことを目的に各行政区で開催されています。

フルーツパフェを作り「食」について学ぶ



手作りのフルーツパフェを試食

11月18日(水)、船岡小学校で6年生115人を対象に、食育出前調理体験教室が開催されました。この事業は地元企業の方が講師となり、好き嫌いなく食べることの大切さを児童たちに知ってもらうために開かれました。児童たちは調理体験を通して、楽しみながら食の栄養について学びました。

布田千尋さん(船岡小学校6年生)は、「毎日の食事を、栄養バランスのとれたものにしたいです」と話しました。

初開催「第12A区行政区民健康まつり2015」



音楽に合わせて体を動かす参加者の皆さん

12月6日(日)に船岡生涯学習センターで、第12A区主催による健康まつりが開かれました。参加した区民78人は、レクリエーションダンスや玉入れなどを通して、楽しく健康づくりに励んでいました。

お孫さんと一緒に来ていた橋本玲子さん(上名生地区)は、「普段お会いできない地域の皆さんと交流できる良い行事だと思います。ぜひ、これからも続けてほしいです」と話されました。

広 告

広 告

まち歩きの魅力を知ろう

NEWS

第1回フットパスフォーラムin柴田

11月22日(日)、フットパスによる元気なまちづくりを推進するため、町が保健センターでフォーラムを初めて開きました。参加者約90人が、JR船岡駅を拠点とした約4・5kmのコースを歩いた後、日本フットパス協会理事の神谷由紀子氏の講演やパネルディスカッションを聴講しました。参加した馬場たまさん(船岡地区)は、「歩いてみて、神社のことなど再発見もありました」と感想を話してくれました。



山形県長井市や仙台市秋保地域の先進事例も紹介された。



鉢を選ぶ林さんご家族

冬の風物詩「シクラメン展示即売会」

12月5日(土)と6日(日)、観光物産交流館さくらの里でシクラメンの展示即売会が開催されました。店頭に並んだシクラメンは、柴田鉢花研究会の皆さんが丹精込めて育てたものです。シクラメンを買いに来られた方は、気に入った色の花を手にとっていました。

ご家族で来られた林佳奈さん(船岡地区)は、「今年のシクラメンも、色鮮やかでとてもきれいです」と笑顔で話してくれました。

歌で柴田町をひとつに

NEWS

11月29日(日)、槻木生涯学習センターで3回目となる「柴田町東西対抗チャリティ歌祭」が開かれました。このイベントは、歌を通して人と人が結びつき、地域に一体感を生み出すことを目的に開催されています。

西組で参加した黒田定子さん(西船迫地区)は、「このイベントで歌うことで、交流が広がりました。歌祭が続く限り、自分も出演していきたい」と歌の力を話してくれました。



東西各32組が出演

広 告

広 告



テーマ：おいしく食べられるって幸せ！

食事をおいしく食べられていますか？

口と歯が原因で、食べやすいものだけを食べていると、栄養が偏ったり、飲み込むことに必要な筋肉の衰えにより食事中にむせてしまったりします。

口の健康づくりを積極的に行いましょう



食べ物をよくかんで味わう食事ができる事は生活の豊かさにつながっています。おいしく食べるために口の健康を保ちましょう。



1日に一度は家族と食事をしていますか？

一緒に食べる効果

- おいさと食欲UP
- 会話で口の筋肉を動かすため、口の体操につながる
- 楽しい時間は心の栄養



一緒に食べる機会が少ない方は…

- 外出を心がける
- 友人をお茶飲みに誘ってみる
- 町の事業などに参加するなど



ランチを楽しむ会を紹介します



ランチを楽しむ会は、高齢者の仲間作りの一環として、みんなで一緒に楽しくご飯を食べようという会です。おおむね65歳以上の方ならどなたでも参加できます。現在12団体が活動をしており、1団体は約10人で、月1回お店でランチ（または夕食）を楽しみます。

仲間と一緒に食卓を囲むことで、普段よりモリモリ食べられます！皆で大笑いをして、心も満腹になります♪食事を楽しみ、心も体もいきいきと暮らしましょう。

広 告

広 告



夢空間 2016



切り絵「阿武隈川の白鳥」
佐藤光雄さん (西船迫四丁目)



はなちゃん (ペンネーム)



お子さん(4歳まで)の写真をお待ちしています。写真の裏にお子さんの名前を必ず書いてください。投稿者の住所、氏名、電話番号、お子さんの名前・生年月日を明記し、「ひとこと」を添えて応募してください。

ふれあいマイタウンは、町民の皆さんからの応募・紹介でつくるコーナーです。俳句・川柳・短歌に興味がある(こほう文芸)、自己表現コーナー(夢空間2016)、お子さんの成長の写真やかわいい孫の写真を載せたいという方は、はがきなどで1月14日(木)までご応募ください。

※応募する場合は投稿者の住所、氏名、電話番号、ペンネーム(希望者のみ)を明記してください。

■連絡先/まちづくり政策課 ☎54-2111

こども美術館



「大光院」(絵)

船迫小学校6年

おおまち あやの
大町 彩乃さん



「大光院」(絵)

船迫小学校6年

さいとう こうしろう
齋藤 晃士朗さん

広 告

広 告

『品質向上とコスト削減を念頭に』

町内で働く若い世代の方の思いや夢などを紹介するコーナーです。



電線に使われる絶縁材料の加熱変形試験を行う望月さん



北日本電線株式会社船岡事業所
配電技術グループ

望月 静香さん(26)
もちづき しずか

北日本電線株式会社船岡事業所は、昭和46年から船岡工業団地で、主に電線を製造しています。私たちの暮らしに電気は欠かせません。取材当日、電線の見本を見せていただきました。驚いたのは電線の重さです。1mくらいでもずしりと重く、電気を送るライプラインの頑丈さに頼もしさを感じました。今回は、同事業所の配電技術グループで奮闘する望月静香さんを紹介いたします。

望月さんは、技術職として主に電線やケーブルの設計開発などを手掛けています。「電力会社をはじめ、さまざまな企業から発注をいただきます。地中に埋設するケーブルや、家屋や集合住宅への引込線など電線の種類はたくさんあります。設計にあたっては、法律や規格を踏まえ慎重にしなければなりません。電線の耐久性や品質はもちろん、製造コストも考えます。私一人の力ではなく、5人いるグループで協力しあって、お客様の要望に応えています」と仕事の内容について話してくれました。

また、船岡育ちの望月さんは、昨年放映されたテレビ番組「みやぎふるさとCM大賞」(東日本放送主催)に出品するための町のPR映像を製作す

るスタッフとして参加。見事、映像賞を獲得しました。プライベートの時間も有意義に使い、仕事上でのストレスを上手に解消しているようです。

取材中、とても明るく受け答えをしてくれたのも好印象でした。がんばってください。

北日本電線株式会社 船岡事業所

柴田町大字船岡字山田1-4
TEL 57-0700



昭和21年の創立以来70年にわたり、常に高品質の電線を開発・製造し、供給してきました。

こうした実績を支えているのが、北日本電線の3つの力である、豊富な経験に基づく技術力、ノウハウを共有し次世代へと引き継いでいく現場力、誠実に責任感をもって製造開発に取り組む人財力です。これらの総合的なパワーこそ、北日本電線のモノづくりの原動力です。従業員数は279人。

人口と世帯数
(平成27年12月1日現在)



38,438人
(前月比12人増)



19,153人
(前月比13人増)



19,285人
(前月比1人減)



15,378世帯
(前月比23世帯増)

※平成24年7月9日の住民基本台帳法の改正に伴い、外国人を含む人口と世帯数となります。